

○5番（山崎 まゆみ君） 山崎まゆみでございます。よろしくお願いします。

それでは9月議会、通告書に従い一般質問いたします。よろしくお願いいたします。

1、東員町まち・ひと・しごと総合戦略について。我が国における急激な少子高齢化に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京・首都圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題となっています。そのために平成26年に制定されたまち・ひと・しごと創生法で、国民一人一人が夢や希望を持ち潤いのある豊かな生活を営むことができる地域社会を形成すること、個性豊かで多様な人材を確保すること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することとしています。国と地方が一体となり中長期的視点に立って取り組む必要があり、東員町でも地方版総合戦略を策定され、まち・ひと・しごとの取り組みがなされています。

私は去る6月議会一般質問においても、このまち・ひと・しごと総合戦略の基本目標1、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるについて所信を問い、執行部の政治姿勢を明らかにし、政策提案させていただきました。今9月議会では、総合戦略の基本目標2、安定した雇用を創出するについてです。総合戦略の効果検証をされ、何項目か修正された総合戦略改定版が今年7月に作られました。その中での質問です。若者が東員町から外に出ていってしまうことや出生率の低下、高齢化が進んでいるという課題の中で、1、若者・女性・高齢者・障がい者などが活躍できる地域づくりの中の取り組みの1つについてお聞きします。若者・女性などの就業率向上、転入促進はどのように進めていきますか。

2、昨日、他の議員さんの質問に対するご答弁にもありましたが、シニア人材バンクはどのように創設され進めていきますか。そしてそれを具体的にどのように活用していきますか。

3、地産地消の推進について。特産品開発などの取り組みをするという組織づくりについてはどのように考えていますか。新産業プロジェクトについては、昨日の質問と重複する部分もあるため、私の方からは組織づくり、すなわち作付けから今まで4年かけてぶどう、ブルーベリーを栽培してきて、今後は農業法人に引き継ぐというご答弁をされていた点から、農業法人、担い手農家さん、すなわち町民との組織づくりについてお尋ねします。

そして次の質問、基本目標1、若い世代の結婚・出産への関心・意欲を高めるという中の出産・子育て不安の解消についての取り組みを健康づくり課、学校教育課、こども家庭課の3課で出産・子育て総合支援相談所をどのように開設・運営していきますか。以上、質問をお伝えしました。ご答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） まち・ひと・しごと創生総合戦略についてのご質問にお答えいたします。昨日の質問と重なる部分が結構ありますので、それはご容赦いただきたいというふうに思います。

本町の総合戦略は、毎年外部委員に取り組んだ事業の効果検証を行っていただいております。十分とは言えませんが、そのためには各施策に目標値を掲げております。その達成具合により

事業の検証を行い、結果を見て拡大、廃止、見直しなどの改善を行いながら、これからも常に見直しをしながら進めてまいりたいというふうに思っております。議員からはいくつかのご質問をいただいておりますが、私からは就業率向上や転入促進、それと人材バンクの2点についてお答えさせていただきます。

1点目といたしまして、若者や女性がこの地域で起業、創業しようとするとき、それを積極的に支援することや雇用の場を確保することにより起業、創業者や本町で働き生活する若者層の転入促進を目指すものでございます。

具体的な取り組みといたしましては、昨年度商工会と連携し起業、創業セミナーを開催いたしました。こうした相談や支援策の情報提供は、いつも商工会でやっておりますのでご利用いただきたいと考えております。

総合戦略の外部会議「まち・ひと・しごと創生懇談会」の委員には、ハローワーク桑名の所長も参加いただいております。就業面での様々な連携などのご提案をいただいております。働く場の確保は、本町だけではなくて地方の田舎町にとって共通の課題であります。本町でも、若者だけでなく高齢者や障がい者、また主婦層の働く場をいかに創出するか、これからの東員町にとってとても大事な重要な要素であると考えております。

今年4月、新産業創造プロジェクトチームを立ち上げ、新しい農業を核とした雇用の創出や稼げる農業を目指した取り組みに着手いたしました。本町の行政面積は22km²と小さくて、その中の3分の1、700ヘクタールが農地でございます。これからの東員町は、この700ヘクタールというこの農地をいかに有効活用して、この農地でいかに生産力を上げるか、これが重要な課題ではないかと考えおります。若者にも魅力ある稼げる農業、そしてそれに関連する稼ぐ仕組みを創出し、若者だけでなく高齢者や女性、障がい者にとって魅力ある働く場所ができれば、みんなが住みたいと思うような町になるのではないのでしょうか。

ただ、これは行政が旗を振って先導するものではありません。町民自らが質的に豊かな生活を目指し取り組んでいかなければならないと考えております。昨日のご質問にもご答弁申し上げましたが、本町では今、東員駅前開発に向けて取り組みを進めております。その目的というのはいろいろございますが、その1つとして、先ほどから申し述べているように、町民の皆様が主体となった稼げるまちの拠点という位置付けも考えております。具体的には、農産物や加工品の販売、それに関連したサービスの提供拠点などを想定してございまして、この場所でも働く場所が創出されるのではないかなと期待しております。

2点目の人材バンクについてお答え申し上げます。本町の高齢者は、近年急激に増加しております。再雇用などを含めると65歳くらいまで働いておられる方も増えております。現在本町には、高齢者の生きがいに寄り添う目的でシルバー人材センターが設立されております。しかし、リタイアしてからも働きたい高齢者全ての希望を叶えられるセンターとなっているとはちょっと考えられないのが現状でございます。本町には、いろいろな企業、職種の経験者で、現役をリタイアされ多種多様な技術や経験を持った、あるいは資格を持った高齢者の皆さんがたくさんお見えになります。一方、町内企業や行政、地域では、こうした方々の知

識や技術を活用させていただく場は少なからず存在するものと考えておまして、こうした有用な人材の活用を目的として、今ありますシルバー人材センターと競合しない形で「シニア専門人材バンク」の立ち上げに向けて、関連する各課で情報共有や調整を行っているところでございます。将来的には、高齢者だけでなく幅広い年齢層から人材を募り、様々な経験値を活用して地域課題の解決に向けご尽力いただけるような仕組みづくりを市民活動支援センターを中心に今検討を進めているところでございます。これからは、行政と町民が役割分担を行いながら、個人個人の力を地域づくりに生かしていただけるよう努めてまいりたいと考えております。

残余につきましては、それぞれ担当部長から答弁させていただきます。

○議長（鷺田 昭男君） 門脇郁夫建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） 私からは、地産地消の推進、特産品開発などに取り組む組織づくりについてご答弁させていただきます。

地産地消につきましては、ふらわあ〜びれっじ運営協議会との協働により地元で採れた農産物の直売朝市を毎月第1・第3日曜日に開催、毎年8月12日には朝市祭を開催しているところでございます。

また、農産物の消費拡大及び加工の普及を図るため「自家用みそ作り講習会」、地元で採れた農産物を使用した調理実習を行い、食の安全安心と地元農産物への理解を深めていただく「食農講座」の開催、農作業を体験したことがない親子を対象に田植えから稲刈り、収穫祭を実施し、地産地消の重要性を理解していただく取り組みを実施させていただいているところでございます。

特産品につきましては「喜び農業推進事業」で取り組んでおりますビニールハウスでのぶどう栽培と液肥栽培システムでのブルーベリーのポット栽培により生産された果実を利用し、町内の洋菓子店や和菓子店の協力を基に展開してまいりたいと考えております。

新産業創造プロジェクトチームでは「農業を核としたまちづくり」に取り組んでいるところであり、現在行われております土地利用型農業で生産されるまずは「大豆」を使用した特産品の開発に取り組めるよう検討を重ねております。

いずれにいたしましても、農産物を生産する農家、加工・販売をする事業者が協力して取り組める組織づくりが重要であると考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（鷺田 昭男君） 松下文丈福祉部長。

○福祉部長（松下 文丈君） 続きまして基本目標1の施策1―2出産・子育て不安の解消についてお答え申し上げます。

本町の総合戦略の「出産・子育て総合支援相談所の開設」は、健康づくり課、学校教育課及び子ども家庭課の3課で今後対応することとして位置付けております。これは国が平成32年度までに設置を求める「子育て世代包括支援センター」を指すものでございます。

「子育て世代包括支援センター」は妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を提供する

拠点として設置が求められており、先月、8月1日でございますが、示された子育て世代包括支援センターの業務ガイドラインによりますと、センターでの支援は、妊娠、出産、子育てのリスクの有無にかかわらず予防的な視点に立ち全妊産婦と就学前乳幼児、その保護者を対象とした「ポピュレーションアプローチ」いわゆる対象を一部に限定しないで集団全体にアプローチし、全体としてリスクを下げることを基本としております。そのためには、関係機関との重層的な連携体制の構築がより一層重要となってきますことから、健康づくり課を中心とし子ども家庭課、学校教育課と協議連携しながら、本町にふさわしい子育て支援のワンストップ拠点として「子育て世代包括支援センター」の整備に向け検討し、出産・子育ての不安解消を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。再質問します。若者の就業、特に起業、新しく事業を興す起業ですが、どこに重点を置こうとしていますか、ご答弁お願いします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） ちょっと重点という質問の意味がよく理解できないんですが、我々起業する若者がいればいいなというふうに思ってますが、やっぱりこの町で働いて稼ぐ。昨日のご質問にもありましたけども、外へ出ていろいろ雇われて働くということ、いろいろ企業がありますからここに住んで、そういうところで働くということを位置付けていくということはあると思うんですが、もう1つ進んで、この町で自らが自分で稼ぐというようなことがあってもいいんじゃないかと。実は今そうした動きがないのは、素地がないんだというふうに思います。ですからまずその3分の1もある農地がなかなか生産性を上げられてないというのが今の東員町です。ですからこの3分の1もある農地で生産性を上げることになれば、当然そこで1人でも2人でも、僕はもっと思っているんですが、若い人たちが自分で稼いで、そして暮らしていく、そうすればこの町を自分の町としてよくしていこうという、また意欲もあらわれてくるんだろうというふうに思っています、できればこの町で自分で起業していくということ、別に農業だけではないんですが、農業に関連したこともあり、他のことでもいいんですが、とにかくこの町で自分で食べていくという若い人がたくさん増えてくれれば、もっともっと町はよくなるんじゃないかというふうに思っています。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。町長のたくましい若者についてのお考え聞かせていただきました。ありがとうございます。

若者が定住してくれないと、町に残らないと東員町は高齢者ばかりの町になってしまいます。若者が就労し活躍し続けてもらえるよう町の支援が欠かせないと思っています。

次に2番について再質問です。リタイアされた方、高齢者の方々がこれまでに培ってみえたスキルや人材を生かしていただき、就業されたり地域活動でご活躍いただけるよう、そんな人材バンクだと思うんですが、人材バンクの運用を高めるということは有効な手段だと思いますが、なるべく多くの方かつ町内各地区での人材を集めるためには、どのような手だてを考えて

みえますか、お答えをお願いします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） ニーズは町内にたくさんあるというふうに思ってますが、まずはとっかかりとして、この役場の中、行政に関連したところでのニーズというものを今把握しているところなんです。各課にいろんなニーズがないかというのを今調査してまして、この役場のニーズに対応していただけるような、そんな人材を見つけていこうというふうに考えてます。恐らくこれも昨日ご答弁申し上げたんですが、企業とかあるいは地域でいろんな困りごととかニーズ、そしてちょっと技術的とか専門性の高い困りごともあると思うんですね。特に企業はあると思うんです。そうしたところに、町内で安価にそういうサービスを提供できる、そんな組織があれば、もっともっと利用いただけるのではないかなというふうに思ってます。ですから、できるだけ専門性の高い、シルバー人材センターとは競合しない形の人材バンクというものを考えていって、それがこの町内でご活躍いただけることになれば、やはり高齢者の生きがいにも繋がっていくのではないかなというふうに思ってますので、この政策をぜひ進めていきたいなというふうに思ってます。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。シニア世代の方が地域の幅広い年代、すなわち若い人とも交流しながら健康でアクティブにご活躍いただいて、活力ある東員町をキープしていけるように町の支援を求めるところです。

次に3番についての再質問をします。大豆を使用した特産品の開発に取り組み、農産物を生産する農家、加工・販売する事業者が協力して取り組める組織づくりが重要とのことですが、若者、女性、高齢者、障がい者の方々がこの特産品開発の場で仕事ができるようになると思います。いかがでしょうか、お答えをお願いします。

○議長（鷺田 昭男君） 門脇郁夫建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） お答えいたします。

大豆を使用した特産品の開発につきましては、現在特殊な加工技術を有する企業と連携した事業展開ができるよう協議を重ねております。まずはその協議が調うことが条件になりますが、農業を核としたまちづくりは、町の特産品の創出など農業の産業化や農業に付随した産業を展開し、雇用・就業機会の創出を図ることが目的でございますので、それが達成されることによりまして若者や女性、高齢者の方、障がい者の方の雇用に繋がるよう取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。特産品開発の場が若者、女性、高齢者、障がい者の方々の雇用の創出となるように期待します。

また3についての再質問をさせていただきます。喜び農業推進事業としてブルーベリー栽培とぶどう栽培を産業課の方で行っていますが、事業を引き継いでいただける新たな担い手農家さんや農業法人があれば引き継がれるというご答弁でしたが、ここまで栽培に試行錯誤、研究

しながら携わってきた若い職員のモチベーションが下がらないようにしていただきたいと思
います。いかがでしょうか。

○議長（鷺田 昭男君） 門脇郁夫建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） お答えいたします。

喜び農業推進事業の実証圃場は、平成26年度から開始し本年初めて果実を収穫することが
でき、その成果を確認することができました。当初の目的である次の担い手に引き継ぐとい
うことができるようになったということで大変職員は喜んでおります。今回の実証圃場の達成感
を持って他の業務についても積極的に取り組んでいただけるものと思っております。以上で
ございます。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 今まで携わってきた若手職員のモチベーションが下がらない
ように、そして今までやってきたことの積み上げになるように、事業を牽引することができる
質と知識を有する職員の育成を図るべきだというふうに考えています。

もう1点、3番について再質問させていただきます。地産地消という観点から、学校給食の
米飯を100%東員町産のお米にすることはできませんか。よろしく願います。

○議長（鷺田 昭男君） 岡野譲治教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えいたします。

私どもも東員町産の米を学校給食にというのを何度も検討させていただきました、過去に。
現状ですけれども、今JA三重北から年間を計画して安定的に供給してもらうという契約をし
ております。ヒノヒカリというお米を買っておるんですけども、JAからはある時期によつて
町内で収穫されたお米を優先的に使ってもらってますと、ですから100%ではありませんけ
れども、東員町の学校給食の中には町内産のお米を使っています。ただ、ヒノヒ
カリの作付け面積は、東員町ではコシヒカリというのが一番多くて、ヒノヒカリが少ないも
のですから足りない分は他市町からやっていただいております。現在もこの1
00%町内産というのはちょっと難しいのではないかと、今ヒノヒカリは1キログラム294
円で、コシヒカリにしますと330円と高くなっちゃう。給食費の値上げをしなければなら
ない。年間を通してそういう形でいいのかという問題もありますので、申しわけないですけ
ども、現在のまま私どもは進めていきたいなと思っております。以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 教育長のご答弁ありがとうございます。私も学校給食用のお
米については調べさせていただきました。まずお米には、学校給食用には東員町はヒノヒカリ
という品種を使うということで、いつの時期からか、ヒノヒカリを使うということで限定され
ているそうです。そしてヒノヒカリという品種に限定しているがために、ヒノヒカリはもとも
と生産量は少ないようで、7月、9月のころ、収穫の前ぐらいになりますと、供給量が不足し
てきてヒノヒカリが足りなくなってしまうので、それまでは東員町産のヒノヒカリ、しかし7
月、9月ぐらいからは東員町産のヒノヒカリはもうなくなっているの、他の産地のヒノヒカ

りというのを供給してくださっているそうです。しかし、学校給食の米飯がキヌヒカリという品種になれば、キヌヒカリはたくさんあるそうなので、100%東員町産のお米で供給できるというJAの担当者の方のご説明がありました。そんなことを私は聞きましたが、またそのあたりご検討をよろしく願います。答弁は結構でございます。

それから次の再質問をさせていただきます。子育て支援センターで現在月曜から金曜まで毎日実施しているなかよし広場とか、各幼稚園で月に1回実施しているちびっこパーク、そして保健師さんによる親子ミニサロンの事業があります。子育て中の保護者の育児相談も既に行われているわけですが、新たにできる出産・子育て総合支援相談所が開設しましたら、その後は、これら現行の相談業務とどのようにすみ分けを図っていくのでしょうかお尋ねします。

○議長（鷺田 昭男君） 松下文丈福祉部長。

○福祉部長（松下 文丈君） お答え申し上げます。

議員申されますように、現在子育て支援センターではなかよし広場、ちびっこパーク等を実施させていただいております。そんな中新たに今回子育て包括支援センターを開設しようと考えてございますが、その辺はやはり連携させていただかないと、お子さん、ご父兄の方、それぞれいろいろな形で対応していくこととなろうかと思っておりますので、十分協議しながらその辺も検討していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。それでは最後の質問をさせていただきたいと思っております。地方創生加速化交付金を活用した事業のまちづくりプラットフォームについて目指すものは何でしょうか、そしてどのように考えますか、ご答弁よろしく願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 「地方創生加速化交付金を活用した事業について」のご質問にお答えいたします。

地方創生加速化交付金は国が1億総活躍社会の実現に向け緊急対応として平成27年度に創設したものです。本町もこの交付金を活用するため事業計画を提出しまして、国に認められたことから平成28年度に事業を実施したところでございます。

この事業の中の1つが本町のまちづくりを魅力的に発信する特設ウェブサイトの創設であり、まちづくりの情報基盤として「まちづくりプラットフォーム」とも呼ばせていただいております。今年度からスタートしました「オミゴトウイン健康活躍のまち東員町」の特設ウェブサイトでは「健康活躍のまち」を本町のブランドとして広く発信し、町民の健康と活躍の拡大とともに東員町の魅力向上を目指しております。「健康活躍のまち」は町民の皆様が様々な場面で元気に活躍いただくことで主体的にまちづくりに参加し、これからの東員町を創り上げていくという趣旨でございます。特にセカンドライフに入る元気なシニアの方々や増加傾向にある子育て世代の若い方々など町民の活躍につながる場として、サイト内では「市民活動支援センター」や「文化協会」などの紹介をしております。先ほど町長から答弁のありました「シニア専

門人材バンク」につきましても、豊富な知識や技術、経験を持ったシニアの方々が活躍できる制度として確立できましたら、このサイトに加えていきたいと考えております。

また、サイト内では町内で活躍する方を「おみごとなひと」として取り上げ、活動のお話などを踏まえて紹介しております。選定の基準は特に設けておりませんが、身近な活動を取り上げ、多くの方の活動に波及していけばと考えております。サイト内では自薦・他薦を問わず自由に申し込んでいただける体制を用意しています。

この「健康活躍のまち」ブランド戦略展開事業は、総合戦略の施策「地域ブランドの創造・魅力向上とPR」に位置付ける事業でございます。このプラットフォームは「健康活躍のまち」を広く情報提供する1つのツールとして今後さらに内容の充実に努めていきたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。今部長からお話いただいたわけなんです、そのブランドということについてお尋ねしますが、東員町に人材バンクを造られるとか、それから今ある市民活動センターに登録団体がありますし、それから文化協会さんの方にもいろんな団体があります。そういう団体との連携というふうなものはどのように考えていきますか、お答えをお願いします。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 今回のプラットフォーム全般につきましては、東員町が魅力のある町であるということ発信する、そういったところに重点を置いております。議員もご存じかと思うんですが、その1つとして「こんにちは東員町」こういったことで東員町をわかりやすく流入していただくようなものをプラットフォームと、次に東員町でいろんな分野で活動していただいている、こんなことができる、こんな取り組みをしている、そういったことをご紹介する、その団体として4団体ほどこの中では取り上げさせていただいておまして、それぞれ次興味を持ったことに取り組める先として紹介させていただくと。先ほどの人材バンクも同じように、私はこんな資格がある、何か生かせないかといったときにはその人材バンクを見ていただけるように、その全体のアクセスいただけるようなところとして考えております。以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） わかりました。人や団体を繋げ合う役割として設置するのがまちづくりプラットフォームなのかなという理解をいたしました。

そういう方たちの活躍の場を具体的に検討していくべきだと思いますが、そのあたりのサポートというものについては何かお考えがありますでしょうか。

○議長（鷺田 昭男君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 具体的なサポート体制というとまだまだ十分ではございません。これについていろんな人の全てサポートできるかというところいろいろ難しいんですが、昨年、加速化交付金等を踏まえて、先ほど町長の話にもありました起業に対する講義、そういつ

た連続講座等もさせていただいております。またいろんな取り組みをさせていただくところの紹介ということで、限りはあるんですが、いろんな紹介、また研修の場、そういった形で努めていきたいと思っております。以上です。

○議長（鷺田 昭男君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） ありがとうございます。現在東員町の中にはいろんな活躍をしてみえる団体さん、そして人材、そして東員町の行政の方でもいろんな人材育成の講座をさせていただいております。先日「世話やき人講座」というものを私も受講しました。そちらの方でも皆さんとの町民での活動の場ということで、入り口は婚活ということにとりあえず特化しておりましたが、皆さんでかかわっていく、そしてよりよい方法を、みんなの意見を考えていく、そういうスタイルが本当に共感できるなというふうに思いました。今後もぜひ多くの町民の皆さんが主体的に、自発的にまちづくりにかかわっていく、そんな明るい東員町になるように私も頑張っていきたいと思っております。これで私の質問は終わりとさせていただきます。